

山梨大・大岡助教 学会で共同発表

恩師受賞 広がる喜び



大隅良典・東京工業大名誉教授のノーベル医学生理学賞受賞決定を受け、大隅さんに学び、共同研究もした山梨大医学部免疫学講座の大岡杏子助教(36)は3日、「大隅多喜喜なことでうれしく思う」と恩師の受賞を喜んだ。(植松利)

大岡さんは、大隅さんが基一緒に同大へ。この間の4年、礎生物学研究所(愛知県岡崎市)の教授だった2006年から大隅研究室で学び、博士号を取得。大隅さんが東工大に移った09年に研究員として

大隅良典・東京工業大名誉教授の研究について語る山梨大の大岡杏子助教(中央)の山梨大医学部キャンパス

大隅さんのノーベル賞受賞研究「オートファジー」(自食作用)に関わる因子の一つ「ユビキチン様タンパク質Atg8」(「Atg」はオートファジーの略)の研究に携わり、学会で共同発表した。

「私は大隅先生が幅広く研究されてきた中で、一部の基

礎メカニズムを研究しただけ」と語る。大隅さんの弟子の一人、水島昇東京大教授らによって医療と結び付く研究が進められているという。

大岡さんは、大隅さんの研

究姿勢について「面白いことがあつたら集中して研究する。オートファジーへの興味が尽きず、思いついたら自ら手を動かしてみるという人」と振り返る。研究に厳しい一

面もあつたというが、「基本的に温厚で、自然と人が集まってくる。研究内容だけでなく、人柄も慕われて優秀な研究者が多く集まった」と話した。